

令和 8 年 7 月 24 日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名・・・医療法人 仁風会 雲陽の里

サービス種類・・・認知症対応型共同生活介護事業所

会議開催日・・・令和 8 年 7 月 14 日

開催場所・・・雲陽の里

出席者

事業所	1 人	利用者	人
利用者家族		地域代表者	3 人
松江市職員	1 人	包括支援センター	人
知見を有する者		その他（ ）	人

活動状況報告

1) 入所状況について

- ・6 月に 1 名入所で満床になっている。ADL 的にはまだ出来る事が多いが、振り返ったら忘れるぐらい短期記憶が出来ない。

2) 生活状況・活動報告

◎5 月医療安全法人研修「危険予知トレーニング」に職員参加。

◎6～7 月感染予防法人研修「嘔吐物の処理方法」全職員参加。

◎6 月法人防災訓練「火災時の対応」職員参加。

◎外部評価の結果を市に提出済み。ネット上でも検索できるようになっている。

3) ・インシデント及び事故報告（13 件）内容と対策について報告。

同一男性入居者さまについての報告が目立つが、特定の方との関係性がこじれた感じになっている。そもそもの原因は相手方にあるが、同じような言動が他の方にあっても気にならないのに、この方については一々気に障り手を振り上げるような行動がみられるので職員も気をつけてトラブルにならないように介入している。

4) ・身体拘束及び虐待に関する報告はない。

意見交換

職）今回から自治協会長さんに代わって新たに副会長さんに参加していただいているが何かあれば。

地）動ける事と認知症でわからなかったり忘れてしまっている事で介護度がどう変わるのか。

職）どれだけ人の手助けが必要かという事になると思うので、歩いて動作はできても、どうしていいかわからないために傍に付いての声かけや介助にどれだけの時間が必要かによっても介護度が変わってきている。

地）地域協定により地域役員が施設に避難時等の応援に来た際に、そのような方にどのように対応していいかわからない。

職) 雲陽の里においては法人内での応援体制があるので地域の方をお願いする場面は少ないと思うが、仮に応援に来られたとして、施設内から避難誘導をするのは様子のわかる職員が行い、外に避難した方をその場で動かせないように見守りをさせていただくといった事が現実的、せっかく避難をしてもその場で待つことがわからずにどこかに行ってしまう事が考えられる。

市) 避難時の声かけについても、「火事だから逃げましょう」では通じない方もある、訓練の見学で「お茶に行きましょう」といった臨機応変な対応をしている職員さんを見てなるほどと思った。

職) 若い職員は基本のマニュアル通りに進める傾向がある。普段の時にも今火事になったら誰から避難誘導するかといった話をするようにしている。入居の方の傾向はその時によって変わり、疎通に時間が掛かったり、車椅子や歩行器が必要だったりと様々なので効率的な避難誘導が出来るようイメージしてもらっている。

又、水害であれば周辺地域も同様の状況だと思われる。法人内での横移動と縦移動で病棟に避難する事になっている。

※事業所確認欄

☐ 活動報告についての評価をうけることができたか	
☐ 要望・助言等を受ける機会を設けたか	